

県内工芸の輸送機産業等に対する製品に関する試験・研究開発

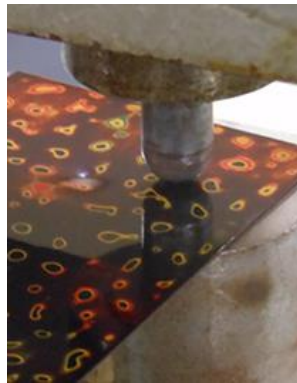
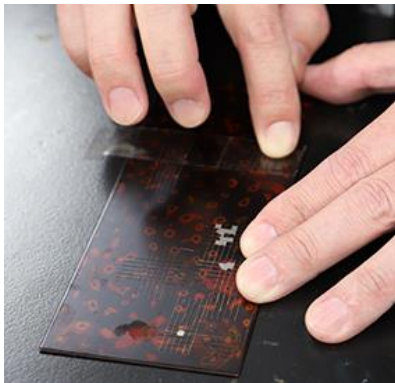
－研ぎ出し変り塗の製品開発研究（第1報）－

Study on utilization of Aomori craft technology in transportation industry.
 - Developing new Tsugaru-nuri products (1st Report) -

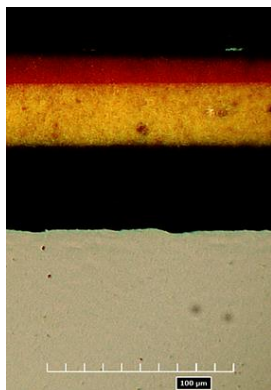
小松 勇、鳴海 藍、赤田朝子、横澤幸仁、高柳和弘*1、梶井紀孝*2
 (*1 八戸工業研究所、*2 石川県工業試験場)

伝統工芸品の売り上げは、生活様式の変化に伴い従来の市場であった食器・家具分野において減少傾向にある。一方、輸送機産業や建築産業においては増加傾向にあり、列車やバスなどの輸送機の内装材に採用する事例が増えている。また、経済産業省では積極的に各地域の伝統工芸品を国内外に発信する事業を実施している。そこで、県内の漆工芸の工業規格による性能試験と、それに伴う技術および製品開発を行い、輸送機産業や建築材産業など新たな産業分野に進出するための基盤整備を行う。

令和元年度は、鋼板・ABS板・MDF板の素材3種に、塗り10仕様の、計30種146枚の試験片を作成し、冷熱湿繰返し性試験の前後においてJIS(K 5600)試験方法に準拠した塗膜の特性に関わる測定を行った。試験の前後で、光沢・色差・硬度の明らかな変化は認められなかったが、鋼板で付着性の低下（剥がれの発生）が認められた。また、耐液体性（酸・アルカリ・アルコール）試験を実施し、塗膜の断面観察と基本測定を行ったところ、アルカリ処理後に光沢がわずかに落ちたものの、全般に明確な変化は認められなかった。次年度は塗膜の耐久性試験に取り組む予定である。



付着性（クロスカット法） おもり落下性(デュボン式) 測色（測定）



塗膜断面観察

冷熱湿繰返し性試験の前・後の比較

光沢	前後では明らかな変化は見られない（若干、光沢は落ちる）
色差	前後では明らかな変化は見られない（若干、明度が上がる）
付着	鋼板(Fe)は大きく剥がれた(評価5)、ABS, MDFは変化なし(評価1)
硬度	前後では明らかな変化は見られない
おもり	前ではなかったが、後では割れ・ひびが見られた

その他

断面	研ぎ出し変り塗の積層面を観察
耐液	前後では明らかな変化は見られない